

## SDGsに対する市民参画と共生

### Citizen participation to Sustainable Development Goals and Kyosei

長岡素彦 (一般社団法人 地域連携プラットフォーム)

NAGAOKA, MOTOHIKO

(General incorporated association Platform for regional cooperation)

まず、SDGsのような国連等での国際的計画策定のマルチステークホルダープロセスがどのように行われてきたかを述べる。

地球環境の悪化など国家単位での解決が難しく、政府だけでなく企業(多国籍企業)や市民でのマルチステークホルダーでの解決が必要になった。また、科学技術の進歩によりインターネットなどの国境を越えたサイバースペースの問題や第4次産業革命(Industry4.0)によるソサエティ5.0(Society 5.0)の問題などでマルチステークホルダーの協議が必須となりつつある。

2003-06年のWSIS国連世界情報社会会議、2005-2014年のDESD持続可能な開発のための教育の10年、2015年に決議されたSDGs、2015年のWCDRR 国連世界防災会議のなどでのマルチセクター協働・地方自治体とCSO(Civil Society Organization)ネットワークの協働などの特色をもったマルチステークホルダープロセスですすめられた。

次に、日本の自治体等での行政計画等策定のマルチステークホルダープロセスについてである。前世紀の環境破壊(水俣など)、福祉に対応する市民運動や阪神淡路大震災から始まるCSOの動きが市民セクターの発言力を高め、これらの動きを受けて行政と市民の協働や企業と市民の協働のCSR(Corporate Social Responsibility)等でマルチステークホルダーの協議がすすんだ。

各地の都市計画、地域福祉計画、総合計画等、一部の再開発計画、大槌町の地区防災計画などで市民参画、住民参加のマルチステークホルダープロセスでの計画がすすめられた。

筆者も、埼玉地域で行政職員、企業、社協などの団体や地域と協働やCSRを進めてきた。

SDGsは、SD持続可能な開発にもとづき、「誰一人取り残さない」という共生を基本に置いており(1)、その実施にはいくつかのアプローチが存在するが、ここでは政府の科学技術イノベーションアプローチとソーシャルアプローチを取り上げる。(2)

科学技術イノベーションアプローチとは、科学技術イノベーションを主な手段として優先課題により、主にトップダウンによってこれらの実施をはかるものである。

日本政府の「SDGsアクションプラン2018」(3)ではSDGsの推進を「破壊的イノベーションを通じた「Society 5.0」や「生産性革命」を実現」という科学技術イノベーションアプローチで行っている。(「SDGsアクションプラン2019」でも、一部修正はされたが、この路線は継続している。)

また、経団連はこれを支持し「企業行動憲章」の改定を行い、民間企業のSDGsの科学技術イノベーションアプローチの取組を推進している。

政府のこの「SDGsアクションプラン2018」に対してSDGs市民ネットワークは「SDGsボトムアップ・アクションプラン2018」(4)をSDGs推進円卓会議で提言したように、市民社会は社会や制度のデザイン、社会実装を提言している。このようなプロセスで市民社会はマルチステークホルダーでSDGsの構想、実現をはかっている。

北海道では、市民セクターが2016年からSDGsワークショップを行いローカルアジェンダ「S

D G s 北海道の地域目標をつくる」を策定した。  
(5)

2018年になり、北海道庁が「北海道SDGs推進ビジョン」を策定する際に市民セクターが参画したが、「事務局の道は『ビジョンはみなさんと一緒につくる』と言いながら、出された意見には『庁内で検討した』、『既に道議会に説明した』と述べ、だから変えられないとほぼゼロ回答」であった。(6)

富山では、市民セクターが環境市民プラットフォームとやま(PECとやま) (7)を中心として、CSO市民社会組織、地域はもとより、行政、社協、企業、各種団体とマルチステークホルダー協働でSDGsをすすめている。

岡山市域では、公民館におけるSDGs4・ESD持続可能な開発のための教育としての教育・学びと活動が岡山市域での持続可能な地域づくり・SD持続可能な開発を行い、これらをもとにSDGsを推進することができる。

北九州市では、地域での女性の反公害活動を基盤に、北九州市域の市民がSDGs4・ESD持続可能な教育をもとに北九州市域での持続可能な地域づくり・SD持続可能な開発を行い、これらをもとにSDGsを推進することができる。  
(以上については、いずれも現地ヒアリング、または、関係者ヒアリングを行った。)

SDGsの実現のための方法としてのソーシャルデザインには以下の2つが考えうる。

ひとつは、行政主導事業重点実施型SDGsのソーシャルデザインであり、これは科学技術ノベーションアプローチのSDGsを行政主導型プロセスで、ビジョンや合意形成ではなく、今までのフレームワークのままで制度に従って事業実施していくものである。

もうひとつは、市民のマルチステークホルダー問題解決型SDGsのソーシャルデザインであり、これは共生サステナブルイノベーションアプローチのSDGsをマルチステークホルダープロセスで問題解決をしていくものである。

また、SDGsの実現に関する意思決定のデザインとガバナンスモデルには、大きく達成型組織による「中央集権的ガバメントモデル」とティール組織(自主経営) (8)による「自律共働的ネットワークガバナンスモデル」が考えられる。

SDGsの前文、持続可能な開発目標(SDGs)とターゲット、実施手段とグローバルパートナーシップにマルチステークホルダープロセスのパートナーシップが掲げられている。

しかし、現在のSDGsの実施はSDGsの目標を容れ、その達成を目指す中央集権的「ローカルイズ」により、前世紀的な目標達成型組織がSDGsを組織内で完結する垂直的なガバメントモデルで実施している。

市民社会は自律共働的ネットワークガバナンスモデルによるマルチステークホルダープロセスのパートナーシップでのSDGsの実現を目指している。そのための各地の実践からパートナーシップ形成の要素は以下の通りである。

まず、アジェンダの形成がある。これは北海道市民のローカルアジェンダ「SDGs 北海道の地域目標をつくる」があげられる。

次に、各地でパートナーシップ型のSDGsネットワークにより、行政に限らない多様なセクターとマルチステークホルダープロセスのパートナーシップの形成がある。これは、環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)があげられる。

そして、教育・SDGs4-7のESD持続可能な開発のための教育による2030アジェンダの実現については、市民主体の教育のアジェンダとアクションプログラム「ESDグローバルアクションプログラム」がある。これは、岡山市域の市民の公民館のESD活動、北九州市域の市民活動があげられる。

今後も、このようなSDGsに対する市民参画によるマルチステークホルダープロセスとパートナーシップにより共生、「誰ひとり取り残さない」を実現するSDGsに取り組んでいきたい

註

(1)長岡素彦.「SDGs・持続可能な共生をすすめるESD・地域連携教育」.共生科学 (9) .2018

(2)長岡素彦.「SDGs持続可能な開発目標へのアプローチと参画」.武蔵野大学環境研究所紀要

(8).2019

(3)「SDGsアクションプラン2018-2019年 一日本の「SDGsモデル」の発信を目指して一」持続可能な開発目標 (SDGs) 推進本部2017年12月16日

(「SDGsアクションプラン2019」) が2018年12月に採択)

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/>

(4)「SDGsボトムアップ・アクションプラン2018」 (第1次提出分最終版・2018年5月30日SDGs推進円卓会議用) 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク 2018年5月30日

[https://docs.wixstatic.com/ugd/bde02c\\_070e37d-d72ec452088e68703d1bf38ce.pdf](https://docs.wixstatic.com/ugd/bde02c_070e37d-d72ec452088e68703d1bf38ce.pdf)

(5)「SDGs 北海道の地域目標をつくろう」

[http://www.sapporoyu.org/modules/sy\\_myevent/index.php?id\\_event=412](http://www.sapporoyu.org/modules/sy_myevent/index.php?id_event=412)

(6)舞台裏を読む「道、お仕着せのSDGs 指針」北海道新聞朝刊 2019年1月16日付

(7)環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)

<https://www.pectoyama.org/>

(8)フレデリック・ラルー.「テール組織—マネジメントの常識を覆す次世代型組織の出現」.英治出版.2018

(参考)

本シンポジウムでの長岡の趣旨発表

SDGと共生

2030AgendaSDGs and Kyosei

本大会での長岡の研究発表

SDGsグローバル内発的共生のための「SDGsロードマップ」

—中央集権的「ローカライズ」を超えて

SDGs: "SDGs ROADMAP" for Glocal and Internal Kyosei Process

—Byond Centralization and Localization